

集中豪雨とは

集中豪雨とは、狭い範囲に比較的短時間に大量の雨が降る現象です。愛知県では、平成12(2000)年の東海豪雨や平成20(2008)年8月末豪雨など、何度も被害にあっています。

集中豪雨は梅雨の終わりごろや台風シーズンに発生しやすく、河川の氾濫やがけ崩れなどで大きな被害が出るがあるので、十分な注意が必要です。

1時間の雨の量と降り方

10~20mm	ザーザーと降り、雨の音で話し声がよく聞き取れない。
20~30mm	どしゃ降りて側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。
30~50mm	バケツをひっくり返したように降り、山崩れ・がけ崩れが起きやすくなる。都市では下水管から雨水があふれる。
50~80mm	滝のように降り、都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。土石流が起きやすくなる。
80mm以上	息苦しくなるような圧迫感がある。雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、嚴重な警戒が必要となる。

警報と注意報

気象庁は、大雨などによって災害が起きるおそれのある時に「注意報」を、重大な災害が起きるおそれのある時に「警報」を発表します。

さらに、平成25(2013)年8月から『特別警報』の運用が開始されました。

この『特別警報』は、警報により重大な災害への警報を呼びかけたものの、災害発生危険性が十分に伝わらず、迅速な避難行動に結びつかない事例が発生したことから設けられたものです。



警報・注意報の種類

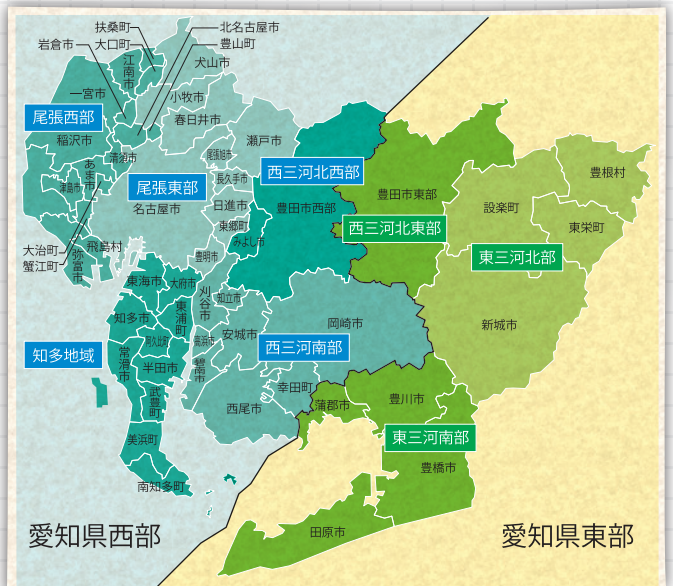
特別警報	大雨・大雪・暴風・暴風雪・波浪・高潮
警報	大雨・洪水・大雪・暴風・暴風雪・波浪・高潮
注意報	大雨・洪水・大雪・強風・風雪・波浪・高潮・濃霧・雷・乾燥・なだれ・霜・低温注意報など

大雨警報は、「大雨警報(土砂災害)」と「大雨警報(浸水害)」として発表されます(土砂災害と浸水害が同時に出されることもあります)。

警報・注意報の発表区域

警報・注意報は市町村ごとに発表されます。

なお、テレビやラジオでは、重要な内容を簡潔かつ効果的に伝えられるように、市町村をまとめた地域の名称により、警戒を要する地域をお知らせする場合があります。



愛知県の主な風水害

伊勢湾台風

昭和34(1959)年9月21日にマリアナ諸島の東海上で発生した台風第15号は、発生後2日足らずで猛烈な台風に成長し、26日紀伊半島に上陸し、東海地方を中心に大きな被害を及ぼしました。



愛知県では、名古屋市や旧弥富町、知多半島などで激しい暴風雨の下、高潮により短時間のうちに大規模な浸水が起き、死者・行方不明者約3,300名に達する大きな被害となりました。

東海豪雨

平成12(2000)年9月11~12日、愛知県を中心に東海地方の広範囲にわたって大きな被害をもたらした豪雨災害です。2日間の積算降水量は多いところで600mm前後に上り、名古屋市周辺で多数の浸水被害が生じたほか、広い範囲で河道護岸の損壊、がけ崩れ、土石流などによる災害が発生し、交通網が寸断されて、伊勢湾台風以来の大被害をもたらしました。



昭和47年7月豪雨災害

昭和47(1972)年7月3日から全国的に降った大雨は、特に12日夜半から愛知県に大きな被害をもたらしました。矢作川沿いの三河地方では、先行降雨で地盤がゆるんでいたこともあり、山・がけ崩れが起き、旧小原村の31名をはじめ、豊田市、旧藤岡村、旧足助町などで死者64名、行方不明者4名の犠牲者を出す大災害となりました。



平成20年8月末豪雨災害

平成20(2008)年8月28日から30日にかけて、日本列島を縦断する形で停滞していた前線の影響により、南からの湿った空気が愛知県の全域に流れ込み、県内各地で局地的な短時間の非常に激しい雨が降りました。特に岡崎市では、29日には時間雨量146.5mmと全国歴代8位の猛烈な雨を記録し、各地で河川氾濫や内水などによる甚大な浸水被害をもたらしました。

